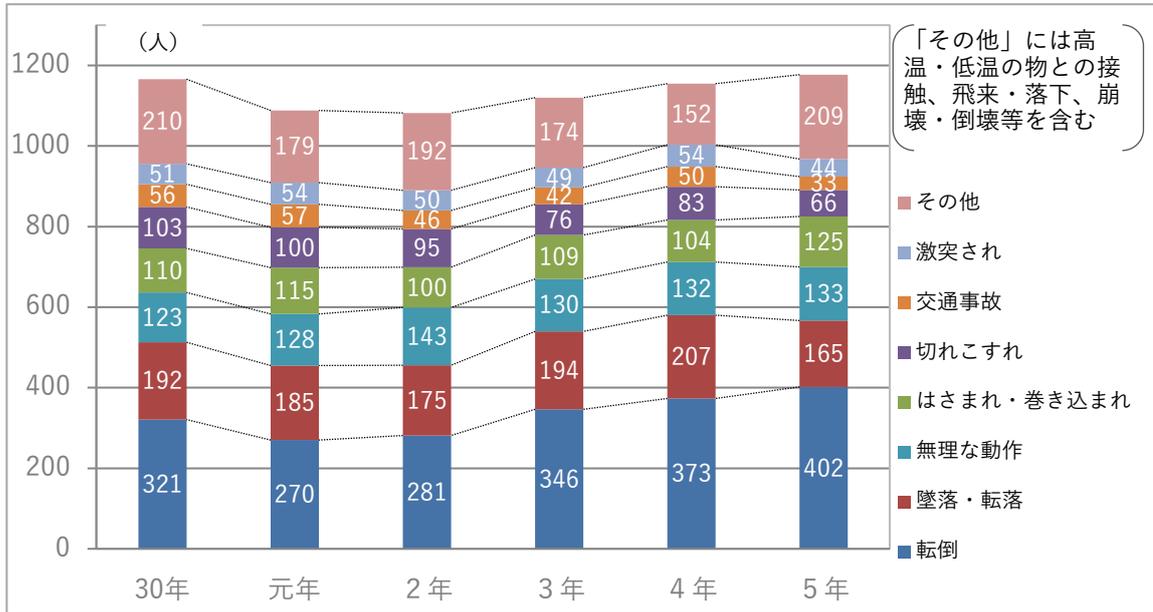


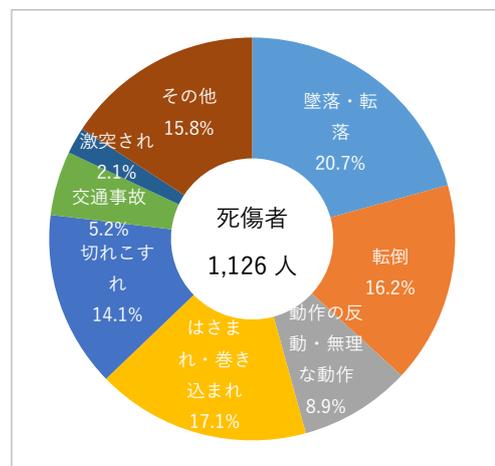
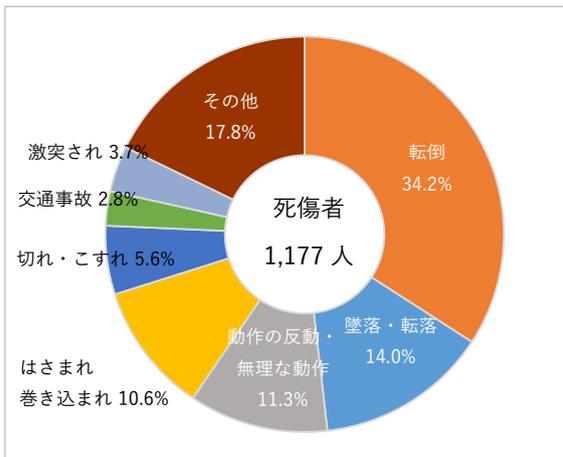
秋田局管内における転倒災害発生状況（令和5年）

1. 事故の型別労働災害の推移（平成30年～令和5年）

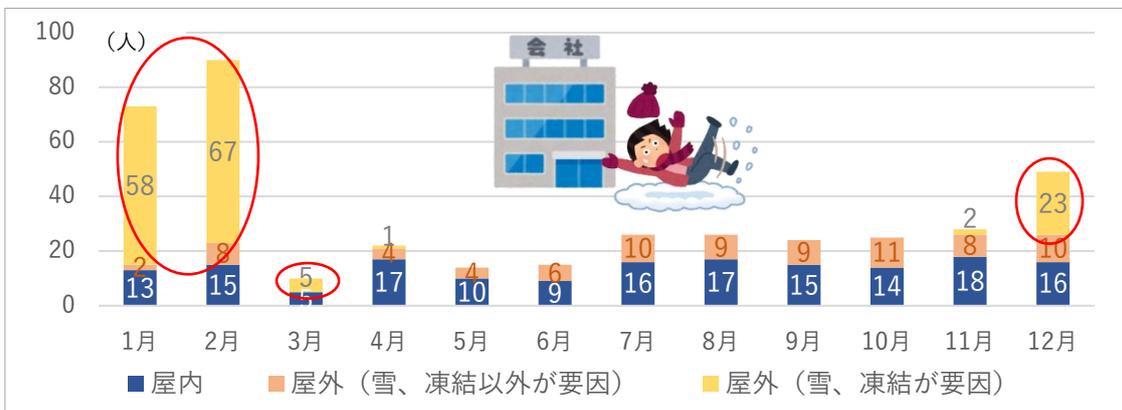


2. 事故の型別発生件数（令和5年）

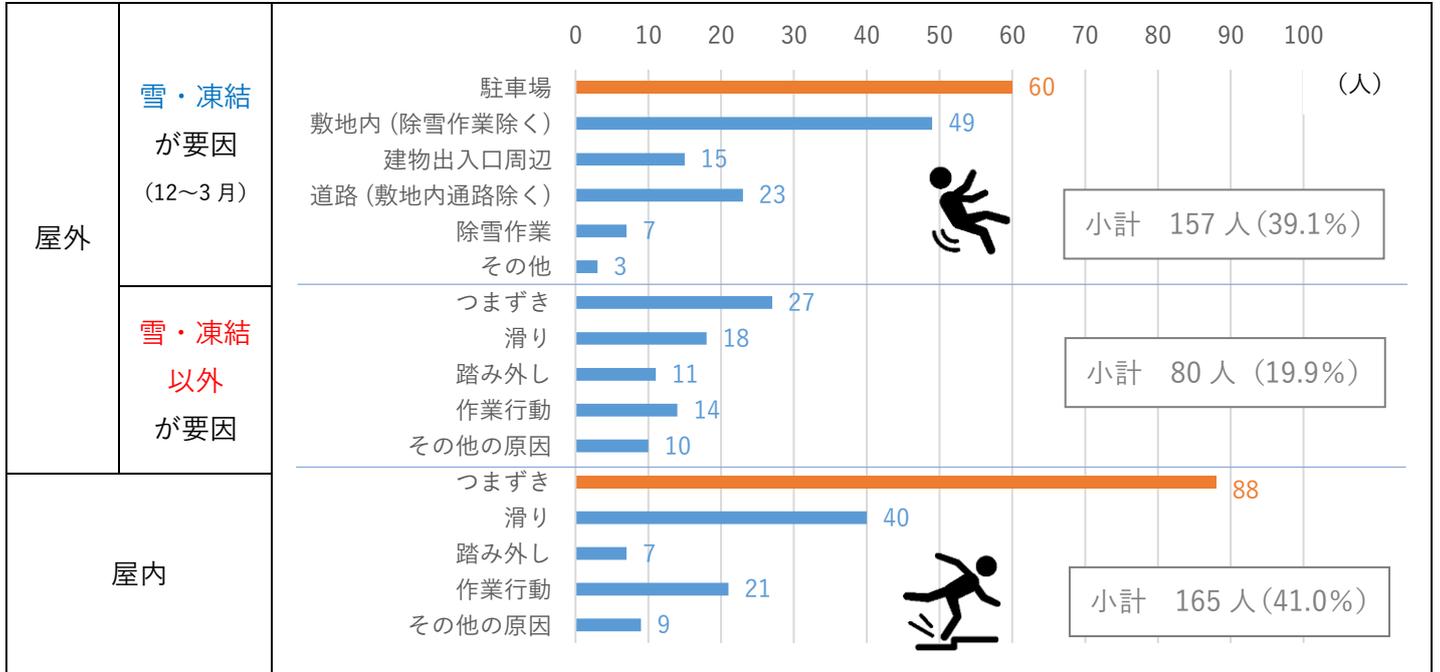
【参考 平成15年】



3. 月別転倒災害発生状況（令和5年）

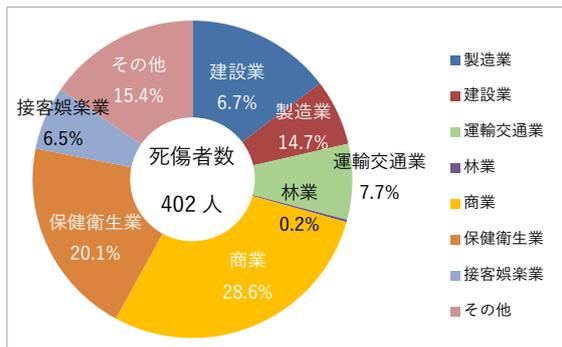


4. 転倒の場所・事故の型別状況（令和5年）



↑ 屋内でつまずき転倒するものが最も多く、次いで駐車場で雪・凍結が要因で転倒するものが多くなっている。また、高齢者などが何もないところで足がもつれて転倒する場合も多い。

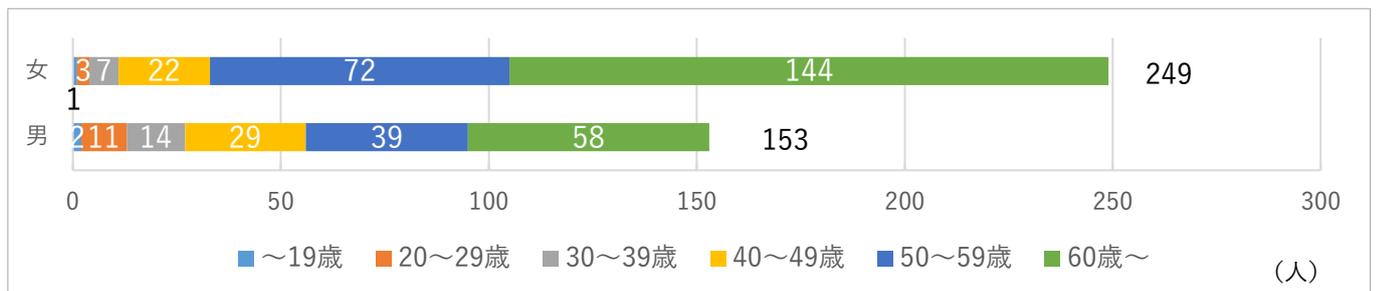
5. 業種別転倒災害発生状況（令和5年）



← 転倒は、商業、保健衛生業の2業種だけで過半数近く(48.7%)を占める。

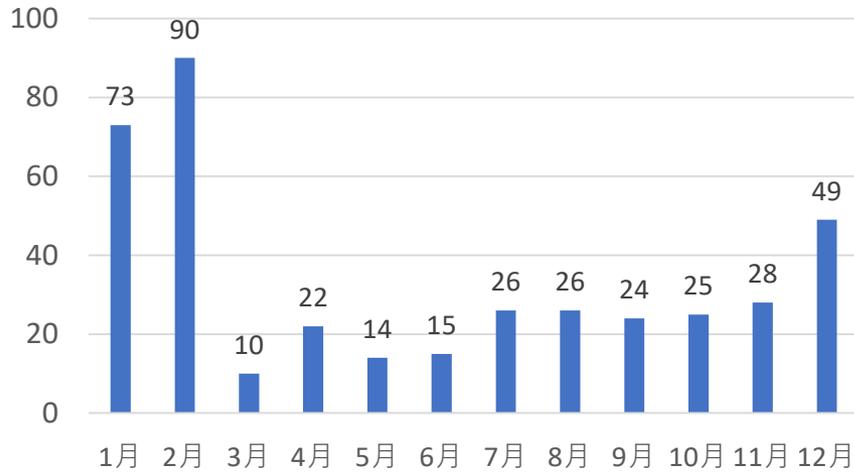
↓ 被災労働者は、40歳以上の労働者が多くを占めている。特に50歳以上の女性労働者だけで被災者全体の半数を超える(54.0%)。

6. 被災労働者の性別・年齢構成（令和5年）

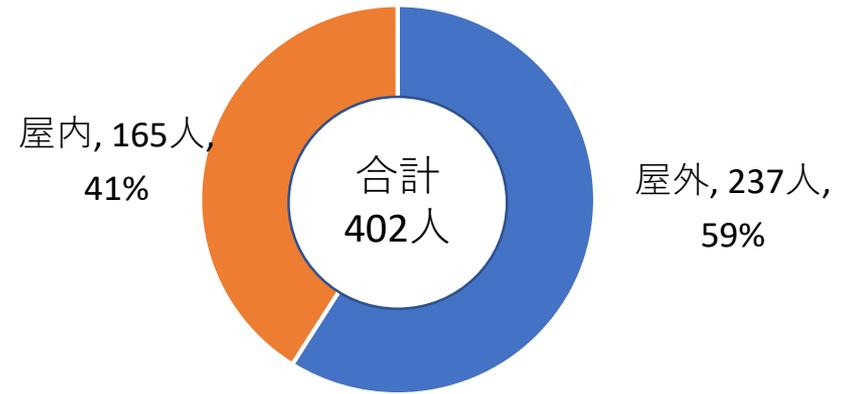


令和5年 転倒災害発生状況 (秋田県内)

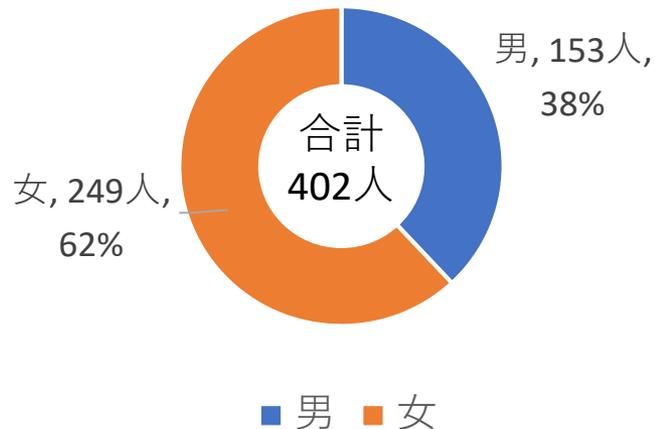
月別 転倒災害発生状況



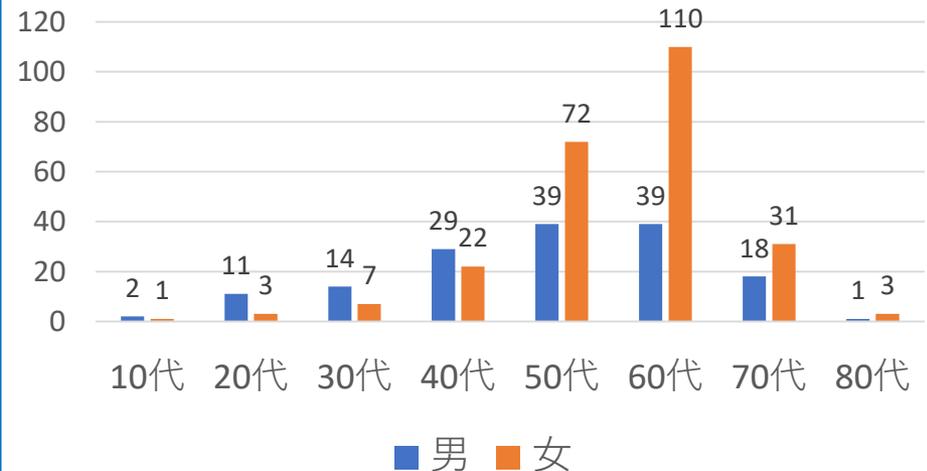
屋内・屋外別 転倒災害発生状況



男女別 転倒災害発生状況



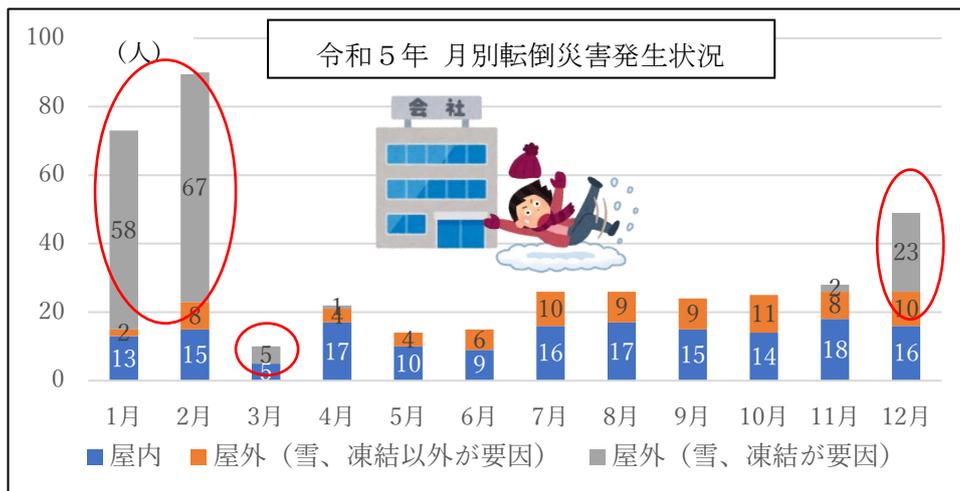
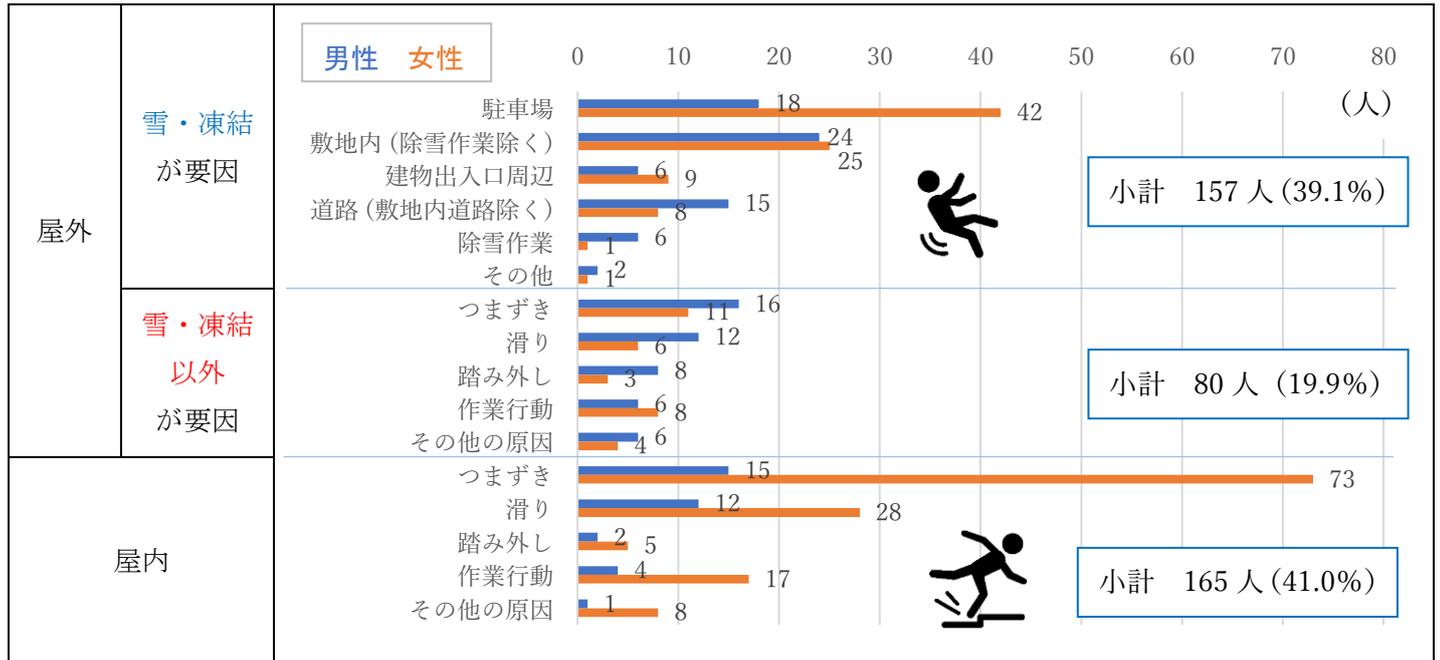
男女別・年代別 転倒災害発生状況



冬季における転倒労働災害防止について

転倒災害発生状況（令和5年秋田県内 休業4日以上）

転倒による被災者数402人



例年、冬季(1~3月、12月)には雪や凍結等が要因となって転倒災害が多発しています。

令和5年は**全体の38.1%**を占める状況にありました。

また、屋外だけでなく、屋内においても、通路に残された溶けた雪(水)や結露等により、転倒リスクが高まることから、適宜、転倒要因を除去することが重要です。

次の4つに留意して転倒災害を防ぎましょう。

1 天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し早めに対策をとりましょう。

2 時間に余裕をもって歩行、作業を行う

悪天候で交通機関の遅れが見込まれる場合は、時間に余裕をもって出勤するよう呼びかけ、落ち着いて作業をするように心がけましょう。屋外では、小さな歩幅で靴の裏全体を地面に付けて歩くことを推奨しましょう。

3 駐車場の除雪・融雪は万全に、また、出入口や屋内通路の溶けた雪の除去などにも注意する

駐車場内や、駐車場から職場までの通路の除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口には転倒防止用マットを敷き、照明設備を設けて夜間の照度を確保しましょう。さらに、屋内通路にある溶けた雪(水)の除去や可能な範囲での結露防止対策も行いましょう。

4 職場の危険マップ、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

職場内で労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、危険マップなどにより労働者に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物選びや、雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょう。